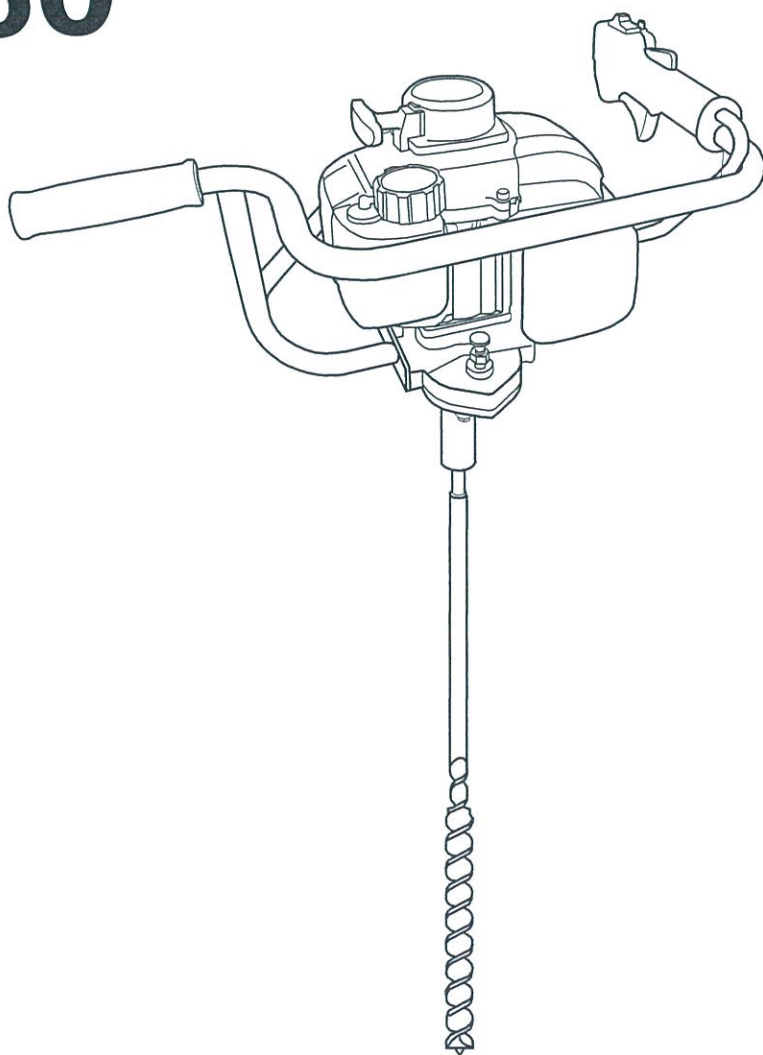




取扱説明書

オーガー AG260



ご使用前に、必ずお読みください

『オーガー』を お買いあげいただき、ありがとうございます。

はじめに

- この取扱説明書は、『オーガー』の正しい取り扱い方法と使用上の注意事項について記載しています。
ご使用前に必ず、よくお読みいただき十分ご理解したうえで、正しくご使用ください。
 - すべての取扱説明書を必ずお読みください。
 - お読みになったあとも大切に保管し、分からない事があったときは、そのつど取り出してお読みください。
 - 品質・性能向上もしくは安全上、製品の仕様変更などにより、本製品とこの説明書の内容が一致しない場合がありますので、あらかじめご了承ください。
 - 作業で起こりやすい事故を未然に防止し、安全に作業するための重要な注意事項に **!** 印の安全注意マークを付しています。よく読んで必ず守ってください。
- !** 注意：この取扱説明書で示す重要な安全指示事項は、起こり得る全ての状況や状態を表すものではありません。機械の安全性には十分気を配っておりますが、作業する方保守をする方も安全には十分な注意・配慮をお願いします。

安全作業をするために

機械を貸すとき、 譲渡するとき

- 機械と一緒に取扱説明書を渡してください。
- 取扱説明書をよく読み、機械の機能と取り扱い上の注意事項を十分ご理解したうえで使用するよう指導してください。

オプション部品 をご使用のとき

- 当社カタログおよび取扱説明書に記載している指定部品を販売店で求めください。
- 当社純正ドリルのみを使用してください。
- 不明な点は販売店にご相談のうえ、取り扱い上の注意を十分ご理解したうえで使用してください。

使用上の注意

- 穴掘り作業のために設計・製造されています。他の目的には絶対に使用しないでください。
- 機械は絶対に改造しないでください。
- 酒を飲んでいる人、薬物の影響のある人、妊娠している人は、機械を操作しないでください。
- 子供や『オーガー』の知識のない人に機械を操作させないでください。
- 初めてご使用になる場合、実作業に入る前に熟練者からの取り扱い指導を受けてください。
- 1日の作業時間は2時間以内とし、30～40分作業したら10～20分間休憩をする等、健康管理をしてください。
- 疲れているときは、機械を使用しないでください。

服 装

- 長袖、長ズボンで裾じまりのよいものを着用してください。
- 巻タオルやネクタイなどは着用しないでください。エンジンやドリルに触れると大変危険です。
- 目の保護のため、防護メガネを着用してください。
- 保護帽（ヘルメット等、JIS規格などの相当品）を着用してください。保護帽を固定したあごひもは垂れないようにしてください。
- 安全靴等のすべり止めのついたものをはいてください。
- 騒音から耳を守るため、適正な保護具（耳栓等）を使用してください。
- 厚手で丈夫な手袋を着用してください。



安全な作業が出来る服装の例



事故の原因となる服装の例

安全作業をするために

環 境

- 暑熱寒冷のときは、長時間の作業は避けて、十分な休息をとってください。
- 悪天候時（雨天、雷、強風、霧など）足下が滑りやすい場合は、作業しないでください。
- 屋内または鉱内など、換気の悪い場所で作業しないでください。エンジンの排気ガスは有害です。吸わないように注意してください。
- 夜間や霧など作業現場周辺の安全確認が困難な場合は作業しないでください。
- 作業場所には、関係者以外近づけないでください。とくに子供や家畜は危険ですから注意してください。

火気厳禁

(燃料・給油に関する注意事項)

- 機械のそばで、喫煙やたき火をしないでください。燃料に引火し火災の原因になります。
- 機械を地面に置き、作業者の手のひらを地面に押し当てるなどして静電気を除去してから燃料給油をしてください。
- エンジン運転中またはエンジンが熱い状態でタンクキャップを外したり燃料給油をしないでください。
- 劣化した燃料は使用しないでください。エンジン不調の原因となります。
- 燃料給油後はタンクキャップを確実に締め、少しでもこぼれた燃料はきれいに拭き取ってください。
- 燃料のある場所や燃料を入れた場所から3 m以上離れた場所で始動してください。
- 燃えやすいものをマフラーから出る排気に近づけないでください。
- 燃料を運搬、保管する際は、鋼板製のガソリン携行缶を使用してください。
- ポリ容器での運搬や保管は、法律で禁止されており、火災の原因となります。
- 燃料は、風通しのよい涼しい場所に保管してください。

始業前の 注意事項

- 作業場所の空缶・針金・小石・ピン等を取り除いてください。機械の故障の原因となるだけでなく、人身事故や物損事故の原因となります。
- 各部を点検し、ゆるみ、損傷、変形、グリス・燃料の漏れなどの異常がないことを確認してください。異常がある場合は修理を行ってください。絶対に異常があるまま使用しないでください。
- エンジンの冷却用空気の入力口や出口にゴミなどが詰まっていないか確認してください。空冷式エンジンのため冷却用空気の通り道がふさがれていると、故障の原因になります。
- エアクリーナの汚れを点検してください。エアクリーナの汚れは、運転状態や燃費に影響します。
- 点火プラグにゆるみがないか、点火プラグキャップが外れていないかを点検してください。
- ドリルは『欠け』『ひび割れ』『まがり』などの異常がないものを使用してください。異常がある場合は、絶対に使用しないでください。人身事故や物損事故の原因となります。

エンジン始動時の 注意事項

- 周囲（機械から半径5 m以内）に人や家畜がいらないことを確認してください。作業員から半径5 m以内は危険区域です。
- 燃料のある場所や燃料を入れた場所から3 m以上離れた場所で始動してください。
- 安定した地面の上で始動してください。
- エンジン始動時にドリルが回転する場合がありますので、ドリルを地面に押しつけるようにし、機械をしっかり保持してください。
- 始動グリップを引くときは、後方に障害物がないことを確認してから行ってください。
- エンジンの回転速度を上げる場合は急激に上げず、徐々に上げてください。

作業中の 注意事項

- 作業員から半径5 m以内は危険区域です。他の人を近づけないでください。とくに子供や家畜は危険ですから注意してください。
- 事故防止のため、機械の周りに子供や家畜がいる場合は、作業を中止してください。
- ドリルは絶対に人や動物、壊れやすいものに向けしないでください。
- エンジン運転中は、ドリルに絶対に触れないでください。身体や衣服などを近づけないでください。
- エンジン本体やマフラー等に触れないでください。高温になるため火傷に注意してください。
- 点火プラグキャップに触れないでください。電気ショックを受ける可能性があります。
- 立ち話は絶対にしないでください。
- 作業員に近づくときは、5 m以上離れた位置から合図し、エンジンおよびドリルの回転が停止した後、前方から近づいてください。
- 後方から声をかけられたときは、エンジンを停止し、ドリルの回転が停止したことを確認して振り向いてください。

安全作業をするために

作業中の 注意事項

- 作業を中断するときは、必ずエンジンを停止し、ドリルの回転が停止したことを確認してください。
- グリップをしっかりと握り、常に足元に注意し、機械や身体のバランスが保てる無理のない安定した姿勢で作業してください。
- 石などの多い場所での穴掘りは、注意してください。機械が反転し足や手にあたり傷害事故が起こるおそれがあります。
- ドリルに大きな負担がかかり、ドリルの回転が止まったときは、すぐにスロットルレバーから手をはなしてください。
- 深い穴掘の場合は、一気に掘ろうとしないで2、3回土を排出させながら作業してください。
- 異常な振動が発生した場合は、すぐにエンジンを停止し、ドリルの回転が停止したことを確認して点検してください。
- 機械から離れるときや、機械を点検・修理・掃除するときなどは、必ずエンジンを停止し、ドリルの回転が停止したことを確認して行ってください。
- ドリルの交換・掃除は、必ずエンジンを停止し、ドリルの回転が停止したことを確認して行ってください。
- エンジンの回転速度を上げる場合は急激に上げず、徐々に上げてください。

エンジン停止時 の注意事項

- エンジンを停止し、ドリルの回転が停止したことを確認してください。
- エンジン停止直後は、エンジン本体やマフラー等が高温のため火傷に注意してください。

運搬時の 注意事項

- 他の場所へ移動するときは、必ずエンジンを停止し、ドリルの回転が停止したことを確認して行ってください。
- 車で運搬する場合は、燃料タンクから燃料を抜き、機械が移動しないようにしっかり固定してください。

点検・整備・掃除 の注意事項

- 必ずエンジンを停止し、ドリルの回転が停止したことを確認して行ってください。
- エンジン停止直後は、エンジン本体やマフラー等が高温のため火傷に注意してください。
- 不意にエンジンが始動することを防ぐため、点火プラグキャップを外してください。
- 機械をきれいに掃除してください。とくにエンジンのエアクリーナや冷却用空気の入力口と出口の掃除を行ってください。火災の原因になります。
- 燃料漏れやグリス漏れがないか点検してください。火災や故障の原因となります。漏れがある場合は修理してください。
- 損傷箇所は修理してください。必ず当社純正部品のみを使用してください。
- 交換するドリルは当社純正ドリルをご使用ください。指定外のドリルは使用しないでください。
- 改造は行わないでください。故障や事故の原因となります。
- 取り外した部品はすべて取り付けてからエンジンを始動してください。
- 記載されていない箇所の点検、整備は販売店にご用命ください。
- 部品または機械を廃棄する場合は、販売店にご相談ください。

長期保管の 注意事項

- 燃料を抜いてください。燃料を入れたまま長期間放置すると燃料中の不純物が気化器や燃料フィルター等の燃料通路に詰まり、エンジン不調の原因となります。
- 損傷箇所は修理してください。
- 各部を十分掃除してください。
- 湿気の少ない場所にチリやゴミが付着しないように保管してください。
- シートカバーをかける場合は、エンジンが冷えていることを確認してください。エンジンが熱い状態では、火災の原因となります。

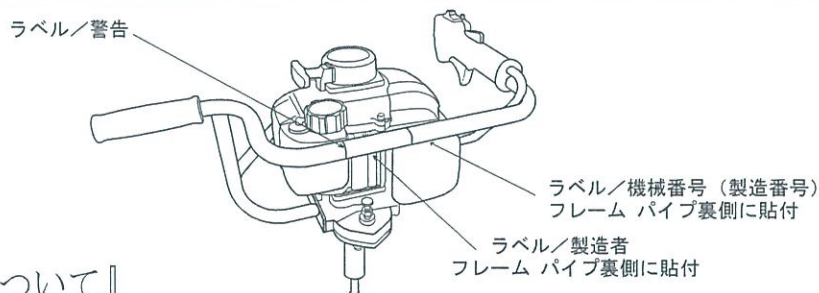
『機械番号（製造番号）』について

この機械には『機械番号（製造番号）』が図示の所に表示してあります。
サービスについてのお問い合わせや部品などのご用命のときは販売店に「型式名、機械番号（製造番号）」をお知らせください。

▲ラベルについて

安全な取扱いについて説明している「▲印付ラベル」を機械に貼付しています。安全上、特に重要な項目を示していますのでラベル記入内容を守り、安全な作業を行なってください。

- ラベルを全て読んでから使用してください。
- 機械に貼ってあるラベルが破損したり、塗料がついたり、または読めなくなったら、新しいラベルに貼り替えてください。
- ラベルが付いている部品を交換するときは、新しいラベルも一緒に付けてください。
- ラベルは機械のお買上げ先に注文してください。
(注文に際してはラベルに記入されているラベル番号で注文してください)



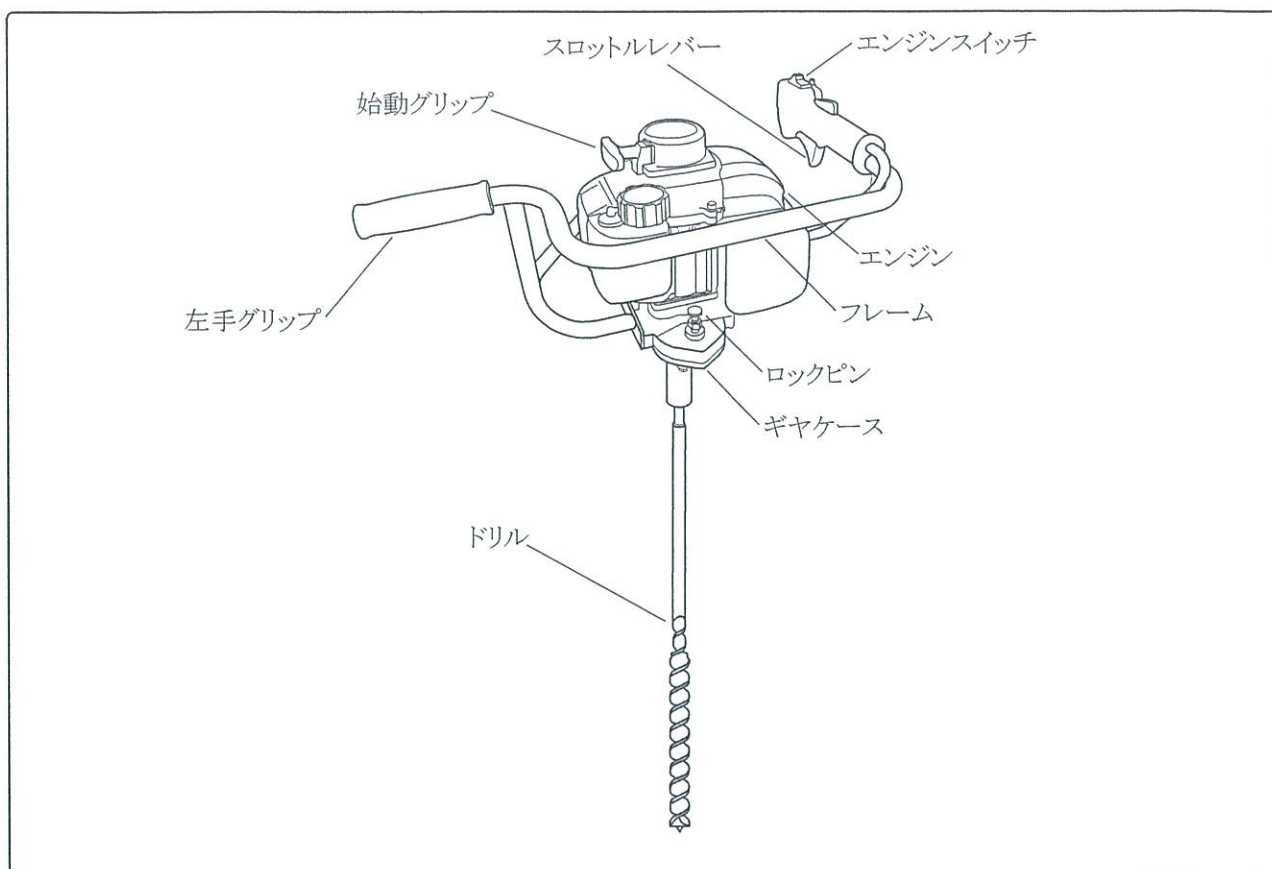
『ラベル表示の意味について』

	表 示	意 味	主な貼付位置
標 識	 危険	その警告に従わなかった場合、死亡または重傷を負うことになるものを示します。	
	 警告	その警告に従わなかった場合、死亡または重傷を負う危険性があるものを示します。	
	 注意	その警告に従わなかった場合、ケガを負うおそれがあるものを示します。	
言 己 号		ご使用前に、必ず取扱説明書を注意深く読んでいただき、安全に作業してください。	本機フレーム 品番：46007-504
		作業中に人身事故が起るおそれがありますので必ず防護具を着用してください。 (防護メガネ、保護帽、耳栓等着用)	
		火気厳禁 引火のおそれがありますので火気を近づけないでください。	

目 次

安全作業をするために	1
『機械番号（製造番号）』について	4
『ラベル表示の意味について』	4
各部の名称と仕様	6
組立	7
●ドリルの取り付け	7
使用燃料	7
エンジンの始動と停止	8
●エンジンの始動	8
●エンジンの停止	8
気化器の調整	9
●アイドリング回転調整	9
●スロットルワイヤの調整	9
使用方法	10
●操作	10
手入れのしかた	11
●日常の手入れ	11
●50時間運転毎の手入れ	11
始業点検、定期点検整備一覧表	12
長期保管のしかた	13
●機械の掃除	13
●錆止め	13
●保管	13
不調の発見と処置	14

各部の名称と仕様



仕 様

本 機	型 式	AG260
	伝達方式	自動遠心クラッチ, 平ギヤ
	減速比	31 : 1
	ドリル回転速度 (rpm)	220 (エンジン回転数 7,000rpm 時)
	ドリル回転方向	右
	潤滑油	EP グリス (リチウム系グリス 2 号)
	重量[ドリル無し] (kg)	5.3
	外形寸法[長×幅×高] (mm)	530 × 290 × 300
エ ン ジ ン	型 式	TLE24VD
	総排気量 (cm ³)	22.5
	最大出力 (kW)	0.7
	始動方式	リコイルスタータ
	冷却方式	強制空冷式
	点火方式	無接点式マグネット点火
	点火プラグ	NGK BPMR8Y
	燃料混合比	50 : 1
	燃料タンク容量 (ℓ)	0.5
ドリル掘削穴寸法 (最大深さ : 560mm)		穴径 φ20, φ25, φ30, φ35, φ60

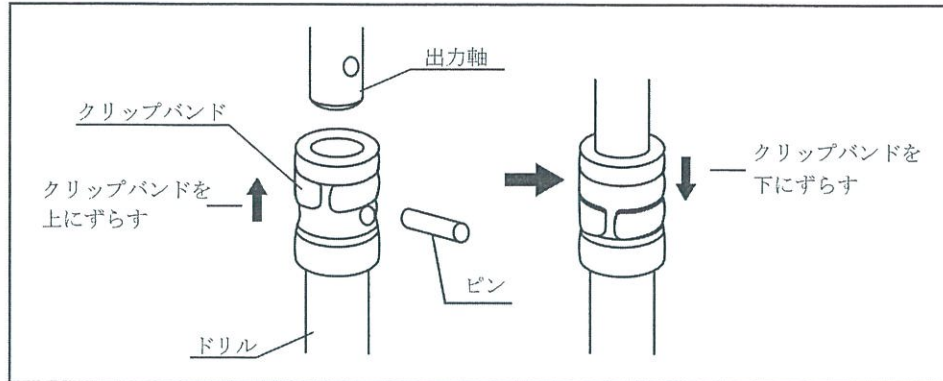
※この仕様は改良等の為、予告無く変更する場合があります。

組立

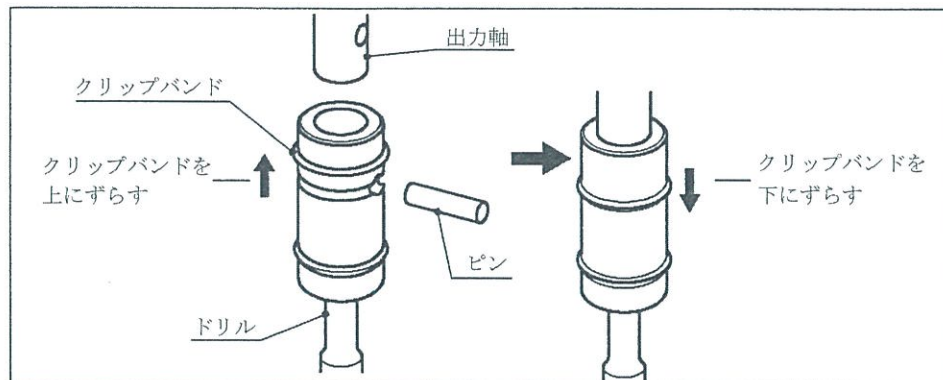
● ドリルの取り付け

1. クリップバンドを上にはずらしピン穴からピンを抜き出してください。
2. ドリルと出力軸双方のピン穴の方向を合わせ、ドリルに出力軸を挿入してください。
3. ピン穴にピンを差し込んでください。
4. ピンが抜け落ちないようにクリップバンドを下にはずしてください。

ドリル径 $\phi 30$ 以上の取り付け



ドリル径 $\phi 20, 25$ の取り付け



使用燃料



危険

- 火気厳禁です。火気に十分注意して取り扱ってください。
少しでもこぼれた燃料は、拭き取ってください。火災の原因になります。
- 誤った混合比の燃料を使用した場合、故障の原因になります。
- ガソリンだけで運転するとエンジンが焼き付き、故障します。
- 必要以上の燃料は、用意しないでください。
- 燃料およびガソリンの運搬や保管は法令を遵守してください。

ガソリンの量	1ℓ	3ℓ	5ℓ
2サイクルエンジン 専用オイル [混合比 50 : 1]	20cc	60cc	100cc

レギュラーガソリンに2サイクルエンジン専用オイルを規定量混合した燃料を使用してください。
2サイクルエンジン専用オイル（JASO規格FC級）をご使用ください。

エンジンの始動と停止



注意

- エンジンの始動レバーを解除するときにスロットルレバーを一時的に「高速」位置にしますが、このときドリルが回転し大変危険です。ハンドルをしっかりと握り機械を押さえてください。
- 暖機運転中にスロットルレバーの操作は行わないでください。
- アイドリング中にドリルが回転する場合は大変危険ですので、気化器のアイドル調整ねじでアイドル回転数を下げてください。（参照ページ：P 9の気化器の調整）

● エンジンの始動

1. エンジンスイッチをONにしてください。（図-1）
 - 1) 手前に引き “I” マーク側にしてください。
2. プライミング操作をしてください。（図-2）
 - 1) プライミングポンプを指で→方向に10回以上押してください。
※エンジンが暖まっているときはプライミング操作は不要です。
3. スロットルレバーを、低速（アイドル）位置にしてください。（図-3）
 - 1) ロックレバーとスロットルレバーから手をはなしてください。
4. エンジンの始動レバーを“始動”の位置にしてください。（図-2）
 - 1) 始動レバーを→方向に動かしてください。
※エンジンが暖まっていて、燃料が残っている場合は始動レバーを動かさないでください。（回すと始動困難になります。）
5. 始動グリップを勢いよく引いてください。（図-4）
6. 始動したら、エンジンの始動レバーを解除してください。
 - 1) ロックレバーとスロットルレバーを握って一時的に“高速”の位置にしてください。（始動レバーが自動的に元の位置に戻ります。）
7. ロックレバーとスロットルレバーから手をはなした状態で約2～3分間暖機運転（アイドル）を行ってください。

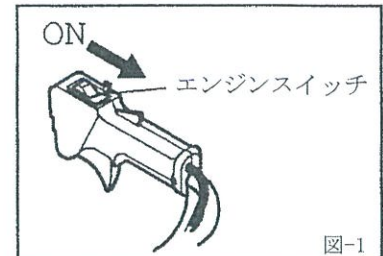


図-1

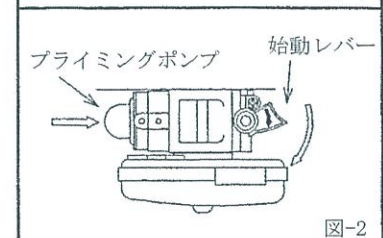


図-2

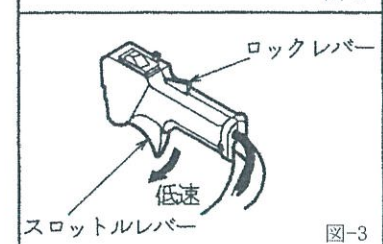


図-3

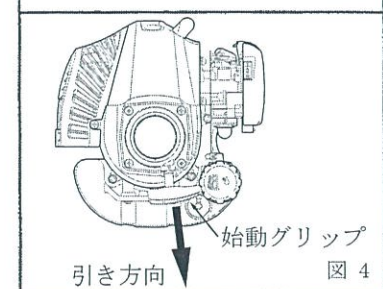


図 4

取り扱いのポイント

始動操作にて初爆があった場合、または始動後にエンジンが停止した場合は、始動レバーを元の位置に戻してから再び始動操作を行ってください。
※始動レバーが“始動”の位置で何度も始動操作を行うとさらに始動困難となります。

● エンジンの停止

1. スロットルレバーを、低速（アイドル）位置にしてください。（図-3）
 - 1) ロックレバーとスロットルレバーから手をはなしてください。
2. エンジンスイッチをSTOPにしてください。（図-5）
 - 1) “O” マーク側にしてください。

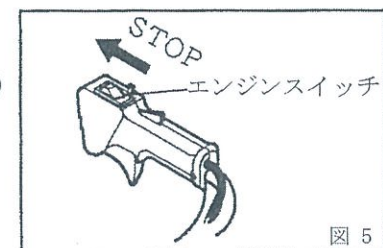


図 5



警告

- 機械が傾き、燃料がタンクキャップの内部まで浸る状態は避けてください。燃料が漏れる可能性があります。（図 6）
- 運転中および停止直後は火傷防止のためエンジン本体、とくにマフラー部に触れないでください。

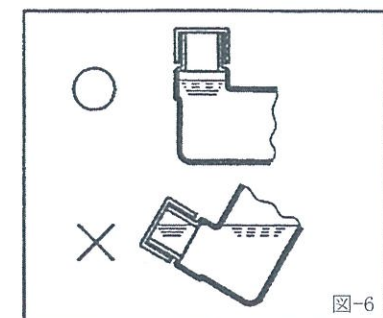


図-6

取り扱いのポイント

- 長時間作業する場合、燃料切れでエンジンが停止するまで使用せず、少し燃料を残した状態で補給するほうが補給後の始動が容易になります。
 - 次の作業がない場合、燃料をすべて抜き取ってください。（燃料の劣化を防ぐため）
1. 燃料タンク内の燃料を抜き取ってください。
 2. エンジンに再始動し、エンジンが停止するまで運転してください。
（気化器内の燃料を使い切るため）

気化器の調整



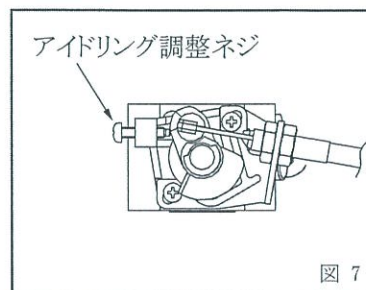
- 記載以外の調整は行わないでください。
気化器の燃料調整は、工場出荷時に最適調整してあります。むやみに調整しないでください。
故障の原因となります。
- 気化器の不調は最寄りの販売店にご相談ください。

● アイドリング回転調整 (図-7)

スロットルレバーを低速（アイドリング）位置にして、スロットルワイヤに遊びがあることを確認したら、始動してください。
暖機運転後にスロットルレバーが低速（アイドリング）位置で下記現象があれば、調整してください。

標準セット回転数
約3000rpm

- ドリルが回転する。（アイドリング回転数が高い。）
調整方法：アイドリング調整ねじを左に回すと、回転速度が下がります。
※下げ過ぎるとエンジン始動が出来なくなります
- エンジンが停止しそうになる。（アイドリング回転数が低い。）
調整方法：アイドリング調整ねじを右に回すと、回転速度が上がります。

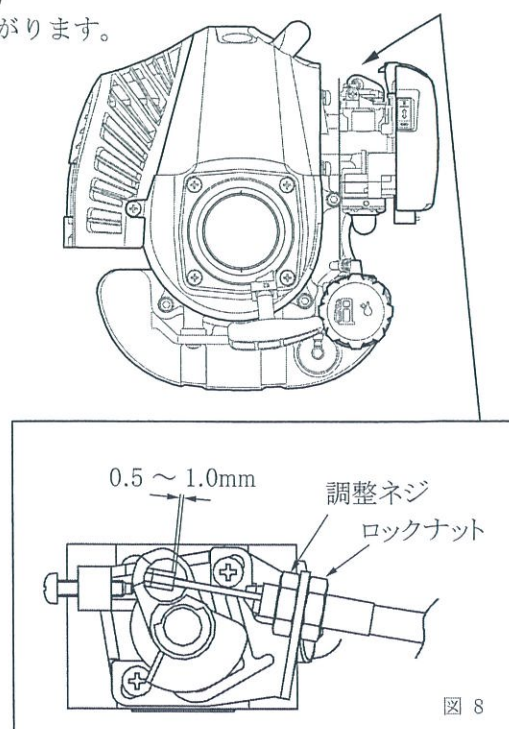


● スロットルワイヤの調整 (図-8)

スロットルワイヤの遊びは、スロットルレバーが低速（アイドリング）位置の状態で
0.5～1.0mmが最適です。

遊びが多いと、最高回転数が低くなる場合があります。
遊びがないと、始動時にドリルが回転することがあります。

1. スロットルレバーを
低速（アイドリング）位置にしてください。
2. ロックナットをゆるめ、スロットルワイヤ調整ねじで
調整してください。
3. 調整後、ロックナットを締めてください。



使用方法



注意

- 本書の（１～３ページ）の注意事項を守って正しくご使用ください。
- 急斜面や滑りやすい場所など身体の安定が保てない場所では使用しないでください。（転倒する危険があります。）
- 作業の途中で点検や燃料補給、また本機から離れる場合は、必ずエンジンを停止し、ドリルの回転が完全に停止したことを確認してください。
- 作業中にドリルが地中の石や根など硬いものに当たると反動で機械が振り回されることがあります。グリップをしっかりと握って作業してください。また反動が起きた場合に、機械が保持できないような場所では使用しないでください。

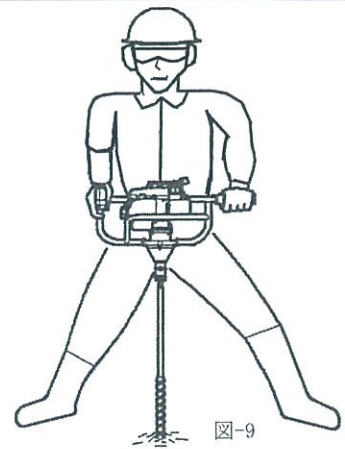


重要

ドリルが回転しない状態でスロットルレバーを握ったままにしないでください。クラッチが破損することがあります。

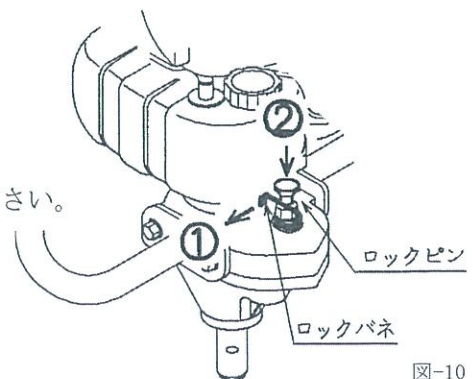
● 操作（図 9）

1. 使用時は、反動で機械が左に回転しようとするので、機械をしっかりと保持する姿勢をとってください。
 - 1) 左右のグリップをしっかりと握ってください。
 - 2) 両足は肩幅より少し広めに開き、ひざを軽く曲げてください。
 - 3) 体重を両足に均等にかけてください。
2. 穴を掘る位置にドリルの先端を置いてください。
3. スロットルレバーをゆっくり引いてください。
4. ドリルが地面に入り始めたらスロットルレバーをすべて引き、機械を軽く地面に押しつけるように掘り進めてください。



取り扱いのポイント

- 作業中、スロットルレバーを握った状態でドリルが回転しなくなった場合。
 - 1) すぐにスロットルレバーから手をはなしてください。
 - 2) 機械を少し引き上げ、再びスロットルレバーを握り、機械を上下に動かしながら少しずつ掘り進めてください。
- 深い穴や土が粘度質の場合。
 - 1) 機械を上下に動かし、ドリル回りの土を排出してください。
- 作業中にドリルが土に食い込んで抜けなくなった場合。（図 10）
 - 1) ドリルの回り止めを行って土から抜き取ってください。
 - 1) エンジンを停止してください。
 - 2) ロックバネを①方向に押しつけてください。（ロックが解除されます。）
 - 3) 機械を回転させながらロックピンを②方向に押し込んでください。（ギヤの溝にかみ合うとピンが奥まで押し込めます。）
 - 4) 機械を左に回してドリルを土から抜き取ってください。
 - 5) 抜き取り後、ロックピンを引き上げ、ロックバネを確実に元の位置へ戻してください。



手入れのしかた

取り扱いのポイント

- 常に機械の点検、手入れを心がけ、きれいに保ってください。穴掘り作業が能率よくできると同時に安全で耐用年数の向上につながります。
- 工場出荷の時は正しく、組まれ調整されていますが、使用によるねじ緩み、傷み、破損、磨耗、伸びなどが生じます。点検、再調整、交換の必要があります。磨耗、損傷の限度を超えた部品は交換して、正しく使用できる状態にしてください。
- ドリルが磨耗している場合は、新しいドリルと交換してください。

● 日常の手入れ



注意

- 各通気孔がゴミや異物で塞がると燃料が気化器へ流れなくなり、エンジンの始動不良や回転不調の原因になります。
- 点検、掃除、調整、整備は必ずエンジンを停止し、ドリルの回転が完全に停止したことを確認してください。
- エンジン停止直後は、エンジン本体やマフラー等が高温のため火傷に注意してください。
- 取り外した部品はすべて取り付けからエンジンを始動してください。

機械の掃除

泥、ゴミ、雑草などを取り除き、汚れをきれいに拭き取ってください。

エアクリーナの掃除

(図 11)

警告：火気厳禁

1. エレメントを白灯油で洗浄してください。
2. エンジンオイルに浸し、片手で固く絞ってください。

冷却風取り入れ口の掃除

(図-12)

エンジンの冷却風取り入れ口を点検し、ゴミが付着していれば取り除いてください。

各締め付け箇所の点検

各締め付け箇所のゆるみや部品の脱落がないかを点検してください。ゆるみがある場合は、増し締めしてください。

● 50時間運転毎の手入れ

点火プラグの掃除と整備

(図-12, 13)

1. 電極およびガイシ部に堆積しているカーボンを掃除してください。
2. 電極スキマを0.6～0.7mm (官製ハガキ3枚の厚み) に調整してください。

燃料フィルターの掃除

(図 14)

警告：火気厳禁

1. 燃料を燃料タンクから完全に抜いてください。
2. 燃料フィルターを燃料注入口から引き出してきれいな白灯油で洗浄してください。
3. 汚れがひどいときは、燃料フィルターを交換のうえ、燃料タンク内も洗浄してください。

カーボン落とし

マフラー出入口、シリンダ、ピストンのカーボン除去は、エンジン整備の技術および道具を要しますので、販売店へご相談ください。

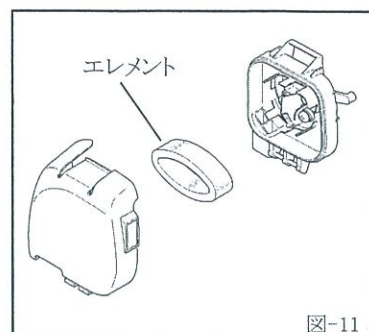


図-11

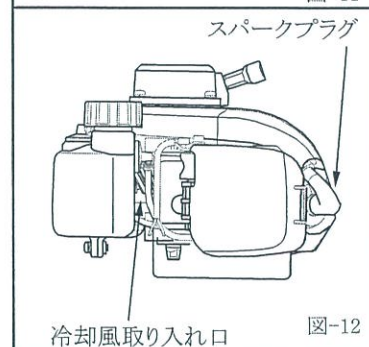


図-12

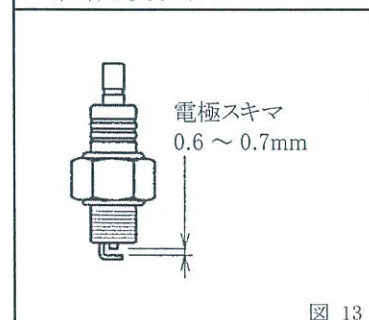


図 13

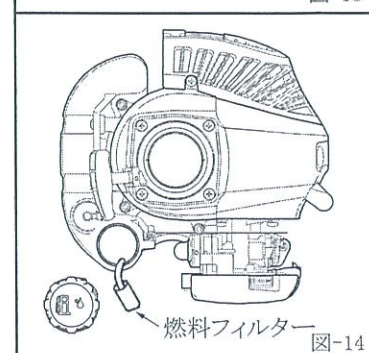


図-14

始業点検、定期点検整備一覧表

- ・点検整備表は、一般的な目安です。異常を感じたときはその都度点検、整備を行ってください。
- ・表示記号の説明 ○・・・・点検、掃除、調整
●・・・・補給・交換

点検整備項目	整備内容	点検整備時間				備考	参照 ページ
		始 業 時	20 時 間	50 時 間	100 時 間		
各ねじ締め付け部の点検	点検、増し締め	○					
エアクリーナの点検	点検、掃除	○	○				11
冷却風取り入れ口の点検	点検、掃除	○					11
アイドリング回転数	点検、掃除	○				アイドリング中にドリルが動かないこと	9
点火プラグ点検	点検、掃除、調整			○	●	スキマ0.6～0.7mm	11
燃料フィルターの点検	点検、調整			○			11
マフラーのカーボン落とし	点検、調整			○		販売店にご相談	
※ギヤケースのグリス交換	交換				●	販売店にご相談 リチウム系グリス2号 規定量100～120グラム	
※クラッチドラムの掃除	点検、掃除				○	販売店にご相談	----

※ギヤケースのグリス交換とクラッチドラムの清掃は、分解する必要がありますので、お買い上げ店にご相談ください。

長期保管のしかた

長期保管をする場合は、下記項目を実施後に保管してください。

取り扱いのポイント

- 定期点検整備一覧表に記載されていない箇所の点検、整備は販売店にご相談ください。
- 部品、機械、油脂類を廃棄する場合は、販売店にご相談ください。

● 機械の掃除

1. 泥、ゴミ、雑草などを取り除き、汚れをきれいに拭き取ってください。
2. ドリルは機械から取り外し、きれいに水洗いしてください。

● 錆止め

1. メッキのはがれ、発錆箇所はきれいに錆を落とし、防錆処理をしてください。
2. 塗装のはがれは、補修塗料を塗ってください。

● 保管

1. 燃料タンクの燃料を完全に抜き取り、再びエンジンを始動させ、気化器内および燃料パイプ内の燃料を使い切ってください。
2. 点火プラグを外し、プラグの穴から新しい2サイクルエンジン専用オイルを少量流し込み、始動グリップでゆっくり数回空転させた後、点火プラグを取り付け、再び始動グリップを引き、重く感じる位置で止めてください。
3. エアクリーナなどを点検し、掃除、乾燥させた後、すべてを取り付けてください。
4. 機械の掃除、点検、整備を終えたら、風通しのよい平坦な乾燥した屋内を選び保管してください。
5. 保管の際、機械にチリやゴミが付着しないように機械にシートを掛けてください。

不調の発見と処置

取り扱いのポイント

- 不調が発生したら、すぐにその原因を調べて処置をしてください。故障を大きくしないため。
- 原因がわからないときや、修理調整しても再発するときは『販売店』に相談するか、点検サービスを受けてください。
- そのときは、『型式』、『機械番号（製造番号）』を合わせてお知らせください。

現 象	原 因	処 置	参照 ページ
・エンジンが始動しない	・エンジンスイッチがOFFになっている ・燃料がない ・粗悪、古い燃料を使用 ・プラグコードが外れている ・燃料フィルタの目詰まり ・燃料の吸い過ぎ ・燃料に水が混入 ・気化器の不調 ・点火プラグの不調 ・気化器の始動レバーが元の位置になっていない（矢印側となっている）	・ON（手前側に引く） ・燃料を補給する ・新しい燃料と交換する ・点検、しっかり接続する ・燃料フィルターを掃除する ・点火プラグを掃除、乾燥する ・新しい燃料と交換する ・点検、販売店に相談する ・点火プラグを掃除、調整、交換する ・始動レバーを元の位置に戻す（スロットルレバーを一時的に高速側にすれば戻る） ※初爆、始動後は始動レバーを元に戻して再始動すること ※始動レバーを矢印側のままでアイドリングを続けるとさらに始動困難となります	8 7 7 11 11 11 7 - 11 8
・エンジン回転数が上がらない ・エンジン出力が出ない	・燃料フィルタの目詰まり ・点火プラグの不調 ・燃料に水が混入 ・燃料混合比が適正でない ・気化器の不調 ・マフラのカーボン詰まり ・タンクキャップの空気穴がゴミで詰まっている ・エアクリーナエレメントの汚れ ・圧縮不足	・燃料フィルターを掃除する ・点火プラグを掃除、調整、交換する ・新しい燃料と交換する ・正しい混合比の燃料と交換する ・点検、販売店に相談する ・点検、販売店に相談する ・点検、掃除する ・点検、掃除する ・販売店に相談する	11 11 7 7 - 11 11 -
・エンジンは正常であるが、ドリルが動かない	・内部破損 ・遠心クラッチの摩耗、破損	・販売店に相談する ・販売店に相談する	- -
・アイドリング中にドリルが動く	・アイドリング回転数が高すぎる ・遠心クラッチが破損	・アイドリング回転数を下げる ・販売店に相談する	9 -
・ドリルが地中に入らない	・ドリル先端部が摩耗 ・土が硬すぎる	・新しいドリルに交換する ・他の機具を使用する	- -

お客様へ：真心をこめて…「ありがとうございます。」

KAZ カーツ株式会社

本 社 〒704-8588 岡山県岡山市東区西大寺五明387-1

【 営 業 】 TEL.(086)942-1118 FAX.(086)942-1120

【受注・問合せ】 TEL.(086)942-1117 FAX.(086)943-9364

九 州 営 業 所 〒862-0911 熊本県熊本市東区健軍2-11-58 ライズ神水(クミス)1F

TEL.(096)285-4331 FAX.(096)285-4330

カ ー ツ 台 湾 中 華 民 国 台 湾 省 台 中 縣 神 岡 鄉 中 山 路 360 巷 7 号

【ホームページ】 <https://www.kaaz.co.jp/>

【 E メ ー ル 】 kaaz@kaaz.co.jp